

ITUAJより

編集後記

4月から放送が始まった新番組を見ました。これまで日本のカメラが入ったことのない場所を訪ね、現地の方々へのアンケートで上位を占めた紹介したい物・事・場所等を訪ねて伝えてくれるものです。

現地の方々とのやり取りや、番組の進行とともに明らかにされる日本とのつながり、日本から伝えるメッセージビデオに対する反応など、日本との違いを知ることができるだけでなく、相互の反応、お互いの気付きも見ることができ、興味深く思いました。

本号の特集は「アフリカの開発に向けた官民連携」です。

地域の事情に対処・配慮を積み重ねながら拡大傾向にある日本とアフリカの関係について、解説をいただきました。

地理的条件を衛星からの視点でカバーする技術、長い経験から導き出した実装の3原則も紹介されています。

どうぞご精読ください。

ITUジャーナル読者アンケート

アンケートはこちら https://www.ituaj.jp/?page_id=793

編集委員

- 委員長 亀山 渉 早稲田大学
- 委員 鈴木 勝裕 総務省 国際戦略局
- 西野 寿律 総務省 国際戦略局
 - 青野 海豊 総務省 総合通信基盤局
 - 山崎 浩史 国立研究開発法人情報通信研究機構
 - 井上 朋子 NTT株式会社
 - 中山 智美 KDDI株式会社
 - 大山 真澄 ソフトバンク株式会社
 - 薮 拓也 日本放送協会
 - 大津 伊作 通信電線線材協会
 - 笛田 航一 1FINITY株式会社
 - 上田健二郎 ソニーグループ株式会社
 - 神保 光子 日本電気株式会社
 - 中平 佳裕 沖電気工業株式会社
 - 阿藤 友紀 一般社団法人情報通信技術委員会
 - 三木 啓嗣 一般社団法人電波産業会
 - 山崎 信 一般社団法人日本ネットワークインフォメーションセンター
- 顧問 相田 仁 東京大学
- 新 博行 株式会社NTTドコモ
 - 田中 良明 早稲田大学

編集委員より

効率化の中にある人間の余白

KDDI株式会社

なかやま さとみ
中山 智美



多くの人の間で日常生活における生成AIの活用が進み、仕事はもちろん、勉強や家事まで以前よりずっと早く、効率よく片付くようになったと言われています。確かに生成AIは、適切に質問すれば目的に向かう最短ルートを示してくれる頼もしい存在です。資料やレポートの作成、分析、さらには今晚の献立まで、「こういうのはどうでしょう」と次々に良さそうな案を出してくれます。「より柔らかい感じで」「もう少し見やすく」「もっと体に優しいもの」といった曖昧な注文にも、文句ひとつ言わず根気よく応えてくれるのですから、本当にありがたいものです。

ただ、いつも最短距離が正解とは限りません。寄り道をしたり、悩んだり、ほんやり空を眺めたりする中で、ふと良いアイデアがひらめくこともあります。生成AIは「無駄」や「余白」を形式として再現することはできませんが、その裏にある感情や余韻を体験として理解しているわけではありません。意味のないおしゃべりや、なんとなく手を止める時間、ああでもないこうでもないと考え込む瞬間——そんな一見無駄に見える時間こそ、人間が味わえる豊かさや贅沢につながるのではないかと思います。発想の元になるものが自分の内部に足りない、AIを十分に生かす指示が出しにくくなります。

効率ばかりを追い求めて余白がなくなってしまうたら、学ぶ力やひらめきを捉える力が弱くなってしまいう気がします。だからこそ、効率化が進む今の時代に、ある種の無駄や余白の価値はむしろ高まっているような気がします。生成AIを利用できる恩恵に感謝しつつも、窓の外の季節の変化に気付くような、心がふっと豊かになる一瞬は、これからも大切にしていきたいと思います。そんなことを考えながら、効率化しきれていない自分の日常を、少しだけ肯定してみたくりました。

ITUジャーナル

Vol.56 No.5 2026年5月1日発行/毎月1回1日発行

発行人 吉田 博史

一般財団法人日本ITU協会

〒160-0022 東京都新宿区新宿1-17-11

BN御苑ビル5階

TEL.03-5357-7610(代) FAX.03-3356-8170

編集人 宮下英一、石田直子、加藤慶子

編集協力 岩城印刷株式会社

©著作権所有 一般財団法人日本ITU協会